



1 学期の終わりを前にして

あつという間に 7 月です。学校の中庭に咲く木々の花も、4 月の桜から 5 月の藤、そして 6 月の紫陽花へとその色を移してきましたが、7 月は花よりも、葉の緑が一番印象的な気がします。校内を歩いてみると、始業式から 3 か月がたって、各学級の様子もずいぶん落ち着いてきたように感じます。しかし、慣れてきたと同時に、新学年が始まった時の初心ややる気が薄れてきてはしないかが、少し気になるところです。

さて、学校では、この 1 学期だけで 4 5 分を 1 単位時間として、1 年生でも 3 0 0 時間以上の学習をしました。1 学期の終わりを前にして、子どもたちには、その学習時間を大切にできたかを振り返ってほしいと思います。すべての時間を集中して過ごすことは難しいと思いますが、同じ時間教室にいても、学習をやらされている人と、自ら学ぼうとしている人では、その集中力は違います。学習の理解とやる気は車の両輪です。どちらが先というものではありません。学習がわかればやる気になるでしょうし、やる気があればこそ学習がわかるのです。そして、子どもたちには、「何を学んだか」をふり返るだけでなく、「何のために学ぶのか」も一緒に考えてほしいと思っています。

また、新しい学級となり、子どもたちが、新しい友だちと出会う中で、その人の事を仲間

として認める事ができたかもふり返ってほしいと思います。この 1 学期、残念ながら、校内で他者の心を傷つけるような出来事がいくつかありました。そのほとんどは、丁寧に指導しながら解決に導いていますが、こうした事をただ残念な出来事だけで終わらせないように、そこから子どもたちに深く考えさせたいと思っています。それと同時に、その事から我々教職員も学び、引き続き子どもたちとしっかり向きあっていきたいと考えています。



ところで、ご家庭では、この1学期間、毎日の生活を充実したものにできたでしょうか。
言うまでもなく、子どもたちの生活の基盤は学校ではなく家庭にあります。睡眠時間が十分
でないと寝不足で翌日の学校生活がしんどくなるように、家庭での過ごし方が子どもの
毎日に与える影響は計り知れないものがあります。また、「衣食足りて礼節を知る」と言わ
れるように、ゆとりある穏やかな生活が子どもの健やかな成長につながります。家庭は子ど
もたちにとって、一番居心地の良い場所でなければならないと思います。

しかし、そうだからと言って居心地が良すぎるのも問題です。何でも親がやってしまっ
て、子どもから自立の機会を奪ってしまうのはどうでしょう。逆に、何もしないで子ども
が好き勝手にしている家庭はどうでしょう。わが子の10年先、20年先を考えて、今必要
なことをきちんとしてあげる事が大切だと思います。

あと2週間ほどすれば、夏休みに入ります。1学期のまとめをしっかりと、夏休み
は、学んだ事や身に付けた事をいろいろな場所で生かして、ひと回りもふた回りも成長し
てほしいと願っています。今学期もご理解とご協力をいただき、ありがとうございました。

根拠のある自信

先日、学校体育の研究会で、バルセロナオリンピックのシンクロナイズドスイミング銅メ
ダリストで、スポーツコメンテーターの奥野史子さんの講演を聴く機会がありました。
様々なお話の中で、一番印象に残ったのは、オリンピックに出場した時のエピソード
です。司会者が、オリンピックの舞台に立った時の感想を求めたところ、奥野さんは、全
く緊張しなかったです。」と答えられました。何故なら、それまでに毎日10時間以上のす
さまじい練習（奥野さんいわく、本当に死ぬほどのというのはこういう事なのかと思った
そうです）をしてきたので、そこに立つ時、「根拠のある自信」があったというのです。

そんな言葉を言える奥野さんのすごさに感心しました。
自信というものは、人から言われてもつものではなく、自分を
きちんと理解した時にはじめて内側からわき上がるものなの
ですね。お話を聴いて、そうした考えをもてる子どもたちを
育てていきたいと思いました。

